

国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業

(報告)

議員名：河野 恵美子

【開催趣旨・目的】

国の「第3次男女共同参画基本計画」では、早急に対応すべき課題として『実効性のある積極的改善措置の推進』（2020年に30%以上）が挙げられている。

生協では、国の計画に基き、男女共同参画促進のための「第四次中期的行動課題」を策定し、その中で「全国の生協では2020年に正規職員の女性比率を20%とすること」を目標としている。しかし現状では正規職員の女性比率は14.3%（2010年度調査）とまだ低く、幹部職・管理職の女性比率も5.1%と、目標には遠い状況にある。

これらの現状をふまえ、特に「2020年30%」の目標についてなぜ取り組む必要があるのか、そしてどのように取り組んでいくのかを学ぶことをテーマとした。具体的には、女性職員比率の向上や女性管理職比率の向上の取り組みを強化するために、企業や生協で女性の管理職として実績を積んでこられた方から、女性が力を発揮して活躍できる職場にするために何が重要であるか、ワーク・ライフ・バランスをどう実践できているかなどをお聞きすることで、広く一般の方に参考となり、それぞれの場での活躍に生かせる内容を目指した。

【シンポジウム等の名称・テーマ】

○名称：「男女共同参画セミナー」

○テーマ：「女性がイキイキ活躍できる職場を目指して～女性の『元気』で、経済を活性化しましょう！～」

【日時】 平成24年8月30日（木）午後13時～16時半

【場所】 主婦会館プラザエフ7階

【参加者数】 生協関係95名、一般参加7名、計102名

【プログラム】

■主催者挨拶：

（田中ひとみ／日本生活協同組合連合会 理事、生活協同組合さいたまコープ理事）

■報告：「男女共同参画社会の実現を目指して」

（小林 洋子／内閣府男女共同参画局推進課長）

■講演：「女性がライフステージにあわせて活躍できる職場を目指して」

（佐藤 京子／イオン株式会社ドラッグ・ファーマシー事業 新規事業担当理事 兼 コスメーム株式会社 代表取締役）

■パネルディスカッション：「女性がイキイキ活躍できる職場を目指して」

<パネリスト>

- ・佐藤 京子／イオン株式会社ドラッグ・ファーマシー事業 新規事業担当理事 兼 コスメーム株式会社 代表取締役
- ・安藤 弥生／生活協同組合コープかながわ 理事・常務執行役員 組織・管理本部長

- ・中井 節子／生活協同組合連合会コープネット事業連合 人事部人事課担当課長、男女共同参画次世代育成支援担当
- ・青地 恵美／生活協同組合パルシステム千葉 財務経理担当課長

<コーディネーター>

- ・田中 ひとみ／日本生活協同組合連合会 理事、生活協同組合さいたまコープ理事

■ 閉会挨拶：

(庭野 吉也／日本生活協同組合連合会 理事、東都生活協同組合 理事長)

【参加者からの主な意見】

今回の内容は女性に視点をあてての構成ではあったが、参加者の多くも女性であったことから、アンケート結果も全体評価では「良かった」以上が 95.4%という結果であった。アンケートでは、以下のような意見が出された。

■ 報告

参加者からは、「女性の活躍がまだまだであることを改めて再認識した。『見える化』はとても良いと思った」「国全体の現状と今後の行動計画がクリアに理解することができた。多様なデータを提供くださったので今後活用したい。背景がとてもよく理解できた」などの感想が多数出された。

■ 講演

参加者からは、「やりがいのある職場、応援する企業の取組みがよくわかった」「イオングループの基本理念がしっかり根付いていることを感じた」などの感想が出された。また、「女性が働くという意味」「より良く生きる。Well being」という「仕事観」に多くの参加者から共感の声があった。

■ パネルディスカッション

「女性管理職がどう制度を活用してきたかを聞き、自分が制度を使う機会ができたなら、積極的に使い、後輩のために道を作りたい」「各パネリストの方の体験・経験に根ざしたお話に共感。壁の乗り越え方が多様であることも、自分なりの形探しのヒントになった」という若い女性職員からの声が多く寄せられ、「家庭・子育てと仕事を両立してきた方々の自信と誇りを感じた。このようなパネルディスカッションを若い職員向けに開催してはどうか」という要望もいただいた。

■ セミナー全体

「家族に応援してもらえるような働き方ができる職場体制になればいいと思う。ワーク・ライフ・バランスについてももっともっと話し合っていきたい。」「男性も女性も『いきいきと働くことができる』『一人ひとりの思いが大事にされる』そんな職場作りが進められれば」「社会における組織のあり方、長期のストーリーも持ちながら、本日からの取り組みに活かしていきたい」「女性が元気に職場で活躍できるよう（業務としても女性の存在は重要）、自職場でも意識を持って臨んでいきたい」といった感想が寄せられた。

【シンポジウム等を通して得た成果（効果）】

今回のセミナーでは、国の「第3次男女共同参画基本計画」の重点15分野の中でも、「第1分野 政策・方針決定過程への女性の参画の拡大」及び「第4分野 雇用等の分野にお

ける男女の均等な機会と待遇の確保」に焦点をあてた。ロールモデルとなる働く女性から、「女性が働き続け」、「キャリアを形成していく」上での課題や解決策について、「女性の積極的登用」、「育児や家庭と仕事の両立」という切り口で、それぞれの組織の取り組みやご経験をお話いただき、参加者が学習し見識を深めることができた。

特にイオン佐藤様からの講演については、生協関係者が多かったにも関わらず、高い評価が得られたこと、内閣府からの報告について、数値で見ることの重要性や、現在日本女性の置かれている現状などに対する問題提起の声などが多数寄せられていることから、今回参加された方に男女共同参画の取り組みに対する様々な「気づき」を投じることができたのではないかと思われる。

参加されたご自身が働く女性であったり、人事の担当者、生協に係って活動をされている方(専業主婦も含む)とそれぞれ違う立場であっても、職場、家庭に今回の内容を持ち帰ることにより、職場における制度の検討はもちろん、生協における組合員同士の語りや家庭内での話題の中で幅広く「男女共同参画」についての認知度を上げていく一助となった。

また、シンポジウムの内容について全国で共有すべく、東北、関西においても開催内容の報告を行い、東北ではシンポジウムで出された「関東の生協の女性比率一覧」などを参考とし、東北版を作成するなど、本シンポジウムの内容を広い地域で有効利用できている。なお、開催の周知においては、1都10県の生協連合会を通じて、男女共同参画センターや、東京ウィメンズプラザ等の各施設で本セミナーの案内チラシを設置いただくなど、幅広く活動を行った。

【今後の課題】

反省点として、本来もっと聞いてもらった方がよい若い女性職員の参加が少なかったことや、生協関係者に比べ一般参加者が少なかったことが挙げられる。今後はより一層こうした観点に留意し改善を行っていく。また、生協内部では、セミナーを撮影したDVDを活用し、参加生協の特に若い女性職員への視聴を呼びかけたい。

その他、セミナー開催決定から、業者の決定とかなりタイトな日程のため、宣伝広告にかけられる時間が少なかったことも反省すべき点であり、もっと日程の猶予を設けるべきであった。周知活動においては、男女共同参画センター等への配布をお願いしたが、他企業の方や、まだ仕事をしておらず社会への復帰を目指す女性の方、男性の方でも気軽に参加できるような案内チラシ、チラシの配布場所など工夫をする必要がある。



イオン株式会社 ドラッグ・ファーマシー事業 新規事業担当理事 兼 コスメーム株式会社代表取締役社長 佐藤京子さんの講演



パネルディスカッションの様子